

# 平成 26 年度「県民協働による事業改善」質疑応答要旨

事業名：がん対策総合推進事業（医療）

平成 26 年 9 月 13 日（土）

質 問 内 容	回 答 内 容
<p><b>【丸山康幸氏（有識者）】</b></p> <p>がん診療連携拠点病院整備事業の内容はどういったものか。</p> <p>では、設備等に対する補助ではなく、主に人件費や、研修会の開催に要する経費ということか。</p> <p><b>【小口寿夫氏（有識者）】</b></p> <p>長野県のがん対策はかなりうまくいっていると思っている。そういう中で、がん診療連携拠点病院が 8 病院でき、その病院への機能評価を実施し厳しくチェックしており、拠点病院に関しては質の高いがん医療が確保されている。厚生労働省においても評価してくれているようだ。</p> <p>そういう状況の中で、今後の事業として、就労支援を行っていくとのことだが、若いがん患者が増え、医療の進歩により生存率が上がってきている。一方で、がんの治療費は高額であり、就労支援は絶対必要であると思っているが、H26 予算は非常に少額であるため次年度は拡充した方が良いのではないか。</p> <p>県は健康長寿を 5 か年計画に掲げているのだから、がんにかかった人も元気で長生きするために</p>	<p><b>【滝沢がん・疾病対策係長】</b></p> <p>大きく分けて 2 つの事業がある。</p> <p>1 つは、がん診療連携拠点病院への運営費補助がある。これは、相談支援、院内がん登録、研修等を拠点病院が実施し、それに伴う経費、運営費を補助している。</p> <p>もう 1 つは、新たに拠点病院を申請する病院、既に拠点病院に指定されている病院の機能評価を実施している。昨年度は、2 病院の新規申請について審査・調査を実施した。</p> <p>設備等については、がん診療施設設備整備事業において、国庫補助を活用し支援を行っている。</p> <p><b>【塚田保健・疾病対策課長】</b></p> <p>就労支援に関して、以前はがんは治らない病気という認識があったが、現在は、がんの治療をする中で社会に復帰される方が多い状況であり非常に重要だと認識している。</p> <p>本年度は社会保険労務士の派遣による就労支援を実施することとしているが、御指摘のとおり予算は少額であり、1 病院当たりの派遣回数も限られている状況で事業を開始することとなった。派遣する社会保険労務士においては、患者の相談に応じてもらうとともに、各拠点病院に設置されている相談支援センターの相談員に対する就労支援のノウハウを含めた研修を行い、基本的には、各がん相談支援センターで就労に関する相談が受けられる体制の整備をしていきたい。</p> <p>2 点目の標準的がん診療を行う病院への支援に</p>

# 平成 26 年度「県民協働による事業改善」質疑応答要旨

事業名：がん対策総合推進事業（医療）

平成 26 年 9 月 13 日（土）

質 問 内 容	回 答 内 容
<p>は是非必要である。</p> <p>現在、拠点病院が 8 病院整備されているが、未整備の医療圏についても早く整備されるよう努めていただきたいが、医療圏の中で他の病院と格差が出てきている。</p> <p>これは問題であり、拠点病院だけでしっかり診療を行っても、がん患者は増えてきている中で、在宅までの間に治療を実施する標準的ながん診療を行う体制を充実させていくことが重要である。</p> <p>そうでないと、拠点病院が潰れてしまう。</p> <p>長野県では、一部の病院ががん拠点をやり救命センターもやりと、目一杯やっており、非常に苦しい状況にあるため、もう少し、補助金の配分を考慮し、標準的ながん診療を行う病院に対して支援し、そういった病院を充実させ、お互いにもっと連携し合う形を構築してもらいたい。</p> <p>予防に関してはこの場では関係ないが、健康長寿につなげるには予防は必要であるが、そのためには教育が絶対必要で、生活習慣から来るがんが増えているので、子どもの頃から生活様式、食事といったことを授業の中に取り入れていくことが必要だと思うが、長野県ではどうなっているのか。</p> <p><b>【丸山康幸氏（有識者）】</b></p> <p>就労支援事業について、60 万円の予算でどのくらいのことのできるのか。</p>	<p>については、御指摘のとおり、拠点病院に集中してくる状況になっているが、そもそも拠点病院は地域の医療機関を統括する立場にあり、地域のがん診療を行う病院との機能連携を図っていくことが重要であり充実させていく必要がある。</p> <p>現状では、補助金が全く付かないことはなく、手を上げてくれる医療機関が少ない等の理由で予算は少額になっているが、今後は、国の新たな財政支援制度を活用し、標準的ながん診療を行う病院についての体制整備に繋げていきたいと考えている。</p> <p>教育に関しては、御指摘のとおり、生活習慣病の位置付けの中で学校教育からの教育が必要で、今年度、県教育委員会において「がんの教育推進会議」が設けられ、県のがん教育をどのように進めるか検討するとともに、教育のマニュアル作りに着手している。</p> <p>その中には、モデル校も 2 校選定されており、現在、授業内容についてもこの会議で検討しているところであり、少しずつ進んでいる。</p> <p><b>【滝沢がん・疾病対策係長】</b></p> <p>今年度立ち上げた就労支援事業については、今年度前半から県社会保険労務士会と相談させていただき、事業を 10 月から行うよう計画している。本年度の計画は、拠点病院に月 1 回、社会保険労務士を派遣し、専門的な就労支援を行っていただく。</p>

## 平成 26 年度「県民協働による事業改善」質疑応答要旨

事業名：がん対策総合推進事業（医療）

平成 26 年 9 月 13 日（土）

質 問 内 容	回 答 内 容
<p>【丸山康幸氏（有識者）】</p> <p>がん診療連携拠点病院が 4 医療圏で未整備ということだが、何年計画で全てに整備されるのか。</p> <p>【橋本要人氏（有識者）】</p> <p>本事業は、健康づくり・医療充実プロジェクトに入っているが、産業施策的な面で、例えば松本市は、健康寿命延伸都市や産学官連携でも、健康医療の部分で産業施策が進んでいるが、そういう中で長野県の平均寿命が全国トップとか、がんの年齢調整死亡率がトップだとか、がん対策も十分になされているとか、そういうことは、長野県のブランドである。</p>	<p>拠点病院では、相談事業を行っており、相談の中には就労に関するものもあるが、専門的な知識が不足するというので、社会保険労務士を派遣する。その状況を見て、来年度以降事業の拡大等も検討していきたい。</p> <p>【塚田保健・疾病対策課長】</p> <p>拠点病院については、信州保健医療総合計画において、5 年後の平成 29 年度には全ての医療圏で整備という計画を立てており、それに向け具体的な対策を立てていく。</p> <p>これまで、国の指針ではがん診療連携拠点病院という、かなりハードルの高いものしか想定がなく、人的、設備的にどうしても人口の少ない医療圏での設置は難しかったが、ある程度要件が緩和され、拠点病院と連携をすることで地域のがん診療の中心となる、地域がん診療病院という枠組みができたので、それらも含め整備を進め、全ての医療圏でがん診療の拠点があるという状況にもっていききたい。</p> <p>【塚田保健・疾病対策課長】</p> <p>御指摘の点を含め、健康づくりは、我々健康福祉の分野だけではなく、産業も含め、いろいろな分野の連携で進めていかなければならないと思っている。</p> <p>県では、健康づくりに関し、ACE プロジェクトを立て、幅広く健康づくりを中心として、他分野との連携も含めて進めていくこととしており、御意見を参考とさせていただく。</p>

## 平成 26 年度「県民協働による事業改善」質疑応答要旨

事業名：がん対策総合推進事業（医療）

平成 26 年 9 月 13 日（土）

質 問 内 容	回 答 内 容
<p>そういう意味でも、このような事業は充実させて、県民がこの事業によって支援を受けるということが第一義的ではあるが、少なくない産業支援となっていると思う。</p> <p>行政の縦割りではなく、部局横断的に、この事業の持っている意味を、違う観点からスポットを当ててみることも必要ではないかと思う。</p> <p><b>【県政モニターA 氏】</b></p> <p>私は上田市に住んでいるが、信州上田医療センターががん診療の中心になるが、実は孫が小児がんを発症したとき、信大附属病院に入院した。どうしても地域の上田では治療ができなかった。早く地域で対応ができるような整備をしていただきたい。</p> <p>もうひとつは、三才山トンネルである。子供なので毎日毎日母親が料金を払って三才山トンネルを通り病院へ行かなければならない。その様な、がん患者への支援も考えていただきたい。早くトンネルを無料化していただきたい。</p>	<p><b>【塚田保健・疾病対策課長】</b></p> <p>小児がんの御家族がいらっしゃるということ、大変御苦勞されているのではないかと思っている。</p> <p>小児がんに関しては、状況が少し違っている。拠点病院では、まず成人の 5 大がんをしっかり診療するという前提である。</p> <p>小児がんに関しては、全県レベルでも患者が非常に少ないということと、小児がんを診られる小児科の医師が非常に限られるという状況の中、現状では県内では県立こども病院か信大附属病院で診ていく。どうしても集約化せざるを得ない状況である。</p> <p>全国的に見ても医者が少ない状況で、集約化していかなければ、治療ができない状況。現状を御理解いただきたい。</p> <p>そういった中で、ある程度治療が進んだところで、地域で診るというネットワーク等、小児科の連携により可能となるところもあり、今後の課題として検討するところがあると思っている。</p>

# 平成 26 年度「県民協働による事業改善」質疑応答要旨

事業名：がん対策総合推進事業（医療）

平成 26 年 9 月 13 日（土）

質 問 内 容	回 答 内 容
<p><b>【平田幸男氏（コーディネーター）】</b></p> <p>トンネルの件は、今日この場では回答はしないということによいと思う。</p> <p><b>【橋本要人氏（有識者）】</b></p> <p>この事業に限ったことではないが、資料の中で国庫補助が付いている事業と、県単独で実施している事業があるが、国庫補助事業は国から、「やれ」と言われているからやらざるを得ない部分が少なからずあると思うが、県単独で実施している事業は、やはり県としての意気込みがある。</p> <p>本事業の中で、県単独で実施しているものはどれなのか。</p> <p><b>【県政モニターB氏】</b></p> <p>こども病院は、県下一円からの受診で成果が上がっているのではないかと思うが、現状の1病院で良いのか、あるいは、どこかに整備をしていく予定があるのか、お分かりであれば実績も含めてお聞きする。</p> <p>また、拠点病院は、松本医療圏で信大附属病院と相澤病院となっているが、こども病院は含まれないのかお聞きする。</p>	<p><b>【滝沢がん・疾病対策係長】</b></p> <p>事業改善シートで申し上げる。</p> <p>相談連携病院整備事業が県単独事業です。</p> <p>事業内容は、拠点病院が未整備の4医療圏の相談体制を充実させるため、中心的な病院にがん相談支援センターの業務を担っていただき、その運営費を補助している。</p> <p>その他に、今年度の新規事業の先進医療費利子補給事業が県単独事業である。</p> <p><b>【塚田保健・疾病対策課長】</b></p> <p>こども病院の具体的な実績については、本日資料がないが、こども病院の現状は、県内の高度な医療を提供する医療機関という位置付けとなっている。</p> <p>県内の各医療圏には、小児科の拠点となる病院があり、通常の診療であれば対応できる体制になっている。</p> <p>そういった中で、かなり高度である部分について、こども病院が担うという体制であり、全てが一極集中するのではなく、連携体制の中にこども病院が位置付けられているので、何か所もということではなく、現状の1か所で対応していくことになると思っている。</p> <p>次に、こども病院のがん拠点病院としての位置付けだが、国で示しているがん拠点病院の基準が、</p>

## 平成 26 年度「県民協働による事業改善」質疑応答要旨

事業名：がん対策総合推進事業（医療）

平成 26 年 9 月 13 日（土）

質 問 内 容	回 答 内 容
	<p>成人のがんへの対応が要件となっており、がん診療連携拠点病院にはならないが、それとは別に、小児がん拠点病院という区分もあるが、全国的に小児がんを診られる施設が限られている中で、ブロック単位での指定となっており、現状ではこども病院は指定されていない状況である。</p>